

女性社員訪問¹⁰ 私たちはいま

日拓グループ 田中千裕さん



優しい表情ながら、芯はしっかり

軽い気持ちの見学が

——昨年9月の終わりに、日遊協が行った皇居勤労奉仕活動のボランティアに参加されたそうですが、皇居のボランティアはいかがでしたか？

たかか？

田中 はい、参加させていただいた方がいい経験になりました。天皇陛下が間近でお声をかけてくださっていたのですが、感動してしまいました。あのオーラというか、にじみ

プロフィール

2001年、青森県出身。高校卒業後新卒で入社し、総合職としてスタッフワークからスタート。エスパス日拓上野新館、エスパス日拓秋葉原駅前店、エスパス日拓渋谷駅前店のランドオープンなどを経験し、現在エスパス日拓上野スロット専門館店長としてマネジメントに勤しむ。
営業部 店長

日拓グループ

1965年10月設立。【企業の使命・存在意義】都心立地型商業不動産事業（自社所有店舗方式での出店）を収益の基盤とした、身近で手軽な大衆娯楽サービス業で、おもてなしの心で、「すべての人」に幸せを提供する。代表取締役社長 西村拓郎氏。企業理念に「企業存続に重要な、七つのSの経営」七カ条を掲げる。

出るお人柄というか。

——そういう田中さんも参加メンバーに印象的だったらしく、インタビューをぜひ！との推薦があり、今回お願いした次第です。

田中さんは学校にきていた求人の中から、「店長候補」と「待遇の良さ」にひかれて、軽い気持ちで東京での会社見学に参加。グループが経営するパチンコ店やデイスコ（当時）を見学し、先輩社員の仕事ぶりに触れ、この会社は楽しそうだな、と入社を決意した。一度は地元を離れて外でいろいろ体験してみなさいという、母の後押しも大きかったという。

誰かに言われる前に

——実際に配属されて、最初の印象はいかがでしたか？

田中 初めはティッシュ配りや、ドル箱を替えたりするなどの小さなことなのですが、そんな小さなことでもお客様と触れ合うのは、楽しいなと思いました。

——その田中さんが店長になるまでの間に、楽しさの質はどんなふうに変わっていったのでしょうか？

田中 最初は、これまでやったことのない仕事を覚えるのが楽しかったのですが、役職が上がることでできることが増えていき、ゲームをクリアするような楽しさがありました。これには責任も伴うの

で、そう簡単な話ではありませんが、「誰かに言われる前に自ら動こう」という思いも重なって、お客様のため、スタッフのため、お店のためになることをより自由に考え実行していける範囲が広がっていくのは楽しかったですね。

——それは男女の別なく、やりたいです」と言えば可能なのですか。
田中 ええ。例えば「それやりたいです！」と手を挙げれば「じゃあやってみようか」と前例に関係なく、やりたいと言ったことはやらせてもらえる環境があります。

島の端と端に立つて

——新店立ち上げも何度か関わっておられるそうですが。

田中 はい、店長になってから3店舗経験しました。新店立ち上げはやっぱり最初のチームワークが鍵です。スタッフはいろんな店舗から来るので、お互いによく知らないですよ。そこで、このお店をどんなお店にしていきたいかをみんなで話し合い、共通の価値観を作り出していくことからチームワークを作り始めます。これができれば、目標設定もできますし、目標に向かってみんなで試行錯誤しながらいろいろ決めていくことができます。お客様が喜んでくだ

女性活躍のための取り組み

「総合職」と「店舗一般職」という職制を整え、「店舗一般職」を選択すると早番・遅番限定、地域限定、短縮6時間勤務などを利用することが可能。また、店舗でのたばこの煙の母体への影響を考慮し、妊娠がわかった時点で取得できる休暇制度もある。女性の役職登用、仕事と家庭の両立支援を実現するための環境整備を会社が進めている。

繰り返しました。50mくらい離れている島の端と端に立って、大きな声ではつきりとあいさつするとかです。ホテルのようなソフトな接客ではなくて、自分たちも楽しく接客して、お祭りのように演出していました。テーマによっては

踊りながら接客することもありましたよ(笑)。
女性の話は特に聴く
——これからしていきたいこととはどんなことでしょうか？
田中 スタッフの教育が、一番自分の中でやりたいことです。男女どちらも、一人一人が成長できるように、長く働いてもらえるように、挑戦しながら責任感のある仕事をしてもらえるように、そんな風にしていきたいです。
——女性にも長く働いてほしい、という考え方なのですか。
田中 はい。当社もまだ女性は少ないと思うので、会社が用意しているいろいろな制度を使いながら、「ライフスタイルが変わってもちゃんと働き続けられるんだよ、安心だよ、プライベートも充実させながらできるよ」というのをちゃんと伝えていきたいですね。それと制度だけでなく、女性の1年目、2年目って悩みがすごく多いのですが、女性の上司がいるだけで安心感があるんですよ。
——きっと相談もしやすいでしょうね。
田中 ええ、女性の話をちゃんと聞いた上で、ケアをすると仕事が

直に聞ける日拓哲学
——田中さんご自身が仕事をしていて思うことは？
田中 会長も社長も上司も、楽しくて温かいのです。週一回本社で店長以上が集まり「業務改革会議」を開くのですが、会長、社長から、経営哲学や会社の方向性などを直接聞いてみると、お店にはまだまだ改善できることがあるなと思います。そこで上司に相談もできますし、ものごとの考え方を教えてもらう場にもなっています。トップと直接話をしながら、業務

上の問題点や改善案を出していきけるのは、当社のコミュニケーションの源泉かもしれません。
——トップの意向がブレなくダイレクトに入ってきますね。
田中 業務改革会議の内容を自分の中に落とし込んで消化して、それを店舗に持ち帰りスタッフに伝えていくのが、私の重要な役目だと思っています。
——会社が積極的に女性幹部を登用しようとする姿勢についてどう思いますか。
田中 以前役員の方より「女性社員を幹部にするのは、優しさや強さがあるからなんだよ」とおっしゃっていたことがあり、そのお言葉通り32歳で一つのお店を任せてくれることに感謝しています。今の立場になってみてなお一層、自分のやりたいことを、お客様のことも考えてやらせてもらえる環境をありがたいと思います。母に店長就任の報告をしたら、「ほんとに感謝しなきゃね」と私の気持ちを代弁してくれたような返事が返ってきました。

(構成) 広報調査委員会 佐藤聖子



マイクを握って指示は的確です

3度の店長経験を活かして 長く働けるスタッフ教育を